

箱館奉行所

箱館奉行所は、幕末の箱館開港により設置された江戸幕府の役所です。安政元年（1854）の日米和親条約により、箱館と下田が開港され、箱館山麓（現在の元町公園）に奉行所が置かれました。しかし、港湾から近く防備上不利であったことなどから、内陸の亀田の地に奉行所を移すことになりました。奉行所を守る外堀には、箱館奉行所諸術調所教授役で蘭学者の武田斐三郎が、ヨーロッパの城塞都市を参考とした西洋式の土塁を考案し、星形五角形の形状から五稜郭と呼ばれるようになりました。

安政4年（1857）から五稜郭の築造が始まり、7年後の元治元年（1864）に役所建物などがほぼ完成したことから箱館山麓の奉行所が移転して五稜郭の中で業務が開始され、蝦夷地の統治や開拓、開港地箱館での諸外国との交渉など幕府の北方政策の拠点となりました。

その後、大政奉還による江戸幕府の崩壊により明治新政府の役所に引き継がれましたが、明治維新の戊辰戦争最後の戦いとなる箱館戦争の舞台となりました。箱館戦争後は、明治4年（1871）に開拓使により奉行所庁舎を含むほとんどの建物が解体され、大正時代以降は公園として一般に開放されました。

函館市では、郭内の建物が失われて五稜郭の本来の姿が理解されにくい状況が続いていたことから、箱館奉行所の復元を主とした五稜郭の史跡整備を計画しました。昭和60年（1985）から発掘調査を始め、古写真や文献資料・古図面などの調査を基に奉行所復元の検討を重ね、平成18年（2006）から工事が開始されました。このようにして、史実に忠実な復元が進み、平成22年（2010）に140年の時を超えて箱館奉行所が再現されました。



箱館奉行所古写真 函館市中央図書館蔵

ご案内

開館時間

4月～10月	午前9時～午後6時
11月～3月	午前9時～午後5時

休館日

12月31日～1月3日	その他臨時休館あり
-------------	-----------

入館料

	個人	団体（20人以上）
一般	500円	400円
学生・生徒・児童	250円	200円

※団体の取扱いには代表者が一括購入し、入館できる場合です。

※小学校就学前の子どもは無料です。

※函館市内の65歳以上の方は半額、障がいのある方は無料です。



箱館奉行所 〒040-0001 函館市五稜郭町44番3号
TEL: 0138 (51) 2864 FAX: 0138 (51) 2548
URL <http://www.hakodate-bugyosho.jp>

函館市指定管理者／名美興業株式会社

箱館奉行所

HAKODATE MAGISTRATE'S OFFICE



五稜郭内にあった建物

文献資料や発掘調査などから、五稜郭内には、箱館奉行所を中心として、20数棟の付属建物などがあったことがわかりました。



- | | | | |
|--------|---------|-------|------|
| ①箱館奉行所 | ⑥徒中番大部屋 | ⑪板庫 | ⑮稽古場 |
| ②用人長屋 | ⑦供溜腰掛 | ⑫板蔵 | ⑯湯所 |
| ③手附長屋 | ⑧公事人腰掛 | ⑬奉行所蔵 | ⑰湯遣所 |
| ④給人長屋 | ⑨仮牢 | ⑭御備蔵 | ⑱門番所 |
| ⑤近中長屋 | ⑩土蔵 | ⑮秣置場 | ⑳門 |

箱館奉行所の復元工事

箱館奉行所の復元工事は平成18年に着工し、4年後の平成22年に完成しました。復元範囲は奉行所庁舎全体のおよそ1/3にあたる約1,000㎡で、全国から結集した宮大工などの職人による日本伝統建築の匠の技により、当時の姿が再現されました。

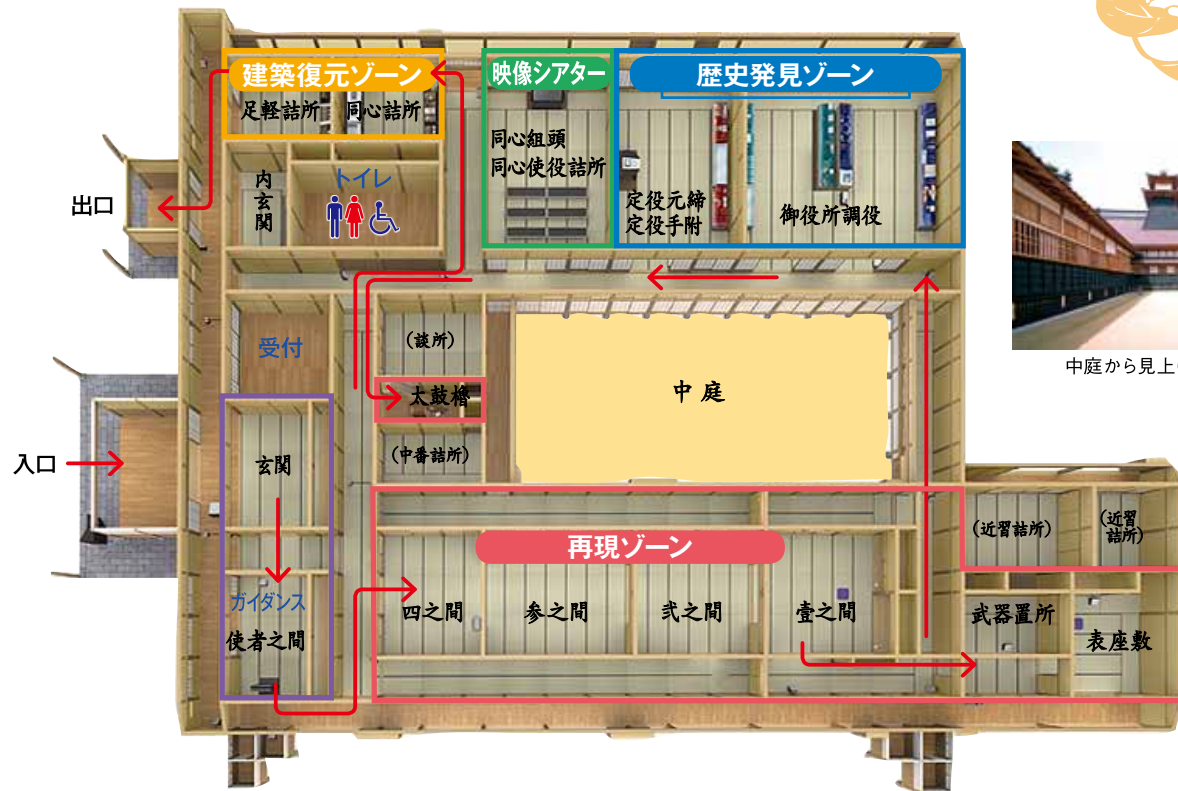


建築途中の奉行所（平成20年7月）



瓦葺きの完成（平成21年4月）

箱館奉行所 館内のご案内



中庭から見上げる太鼓櫓

再現ゾーン



幕末の箱館奉行所を忠実に再現
襖を開け放つと72畳の広さになる大広間や奉行の執務室であった表座敷は、奉行所の中でも格式の高い部屋だったことから、文献資料を基に当時の姿をできる限り忠実に復元しました。日本伝統建築のたたずまいを再現した趣のある空間を体感できます。

歴史発見ゾーン



五稜郭と箱館奉行所の歴史を解説
幕末の箱館開港により設置された箱館奉行所と、奉行所を守るために築造された五稜郭、また戊辰戦争最後の戦いとなった箱館戦争の歴史をわかりやすく解説します。また幕末の箱館戦争にかかわった人物を紹介します。

映像シアター



復元工事の映像記録を放映
箱館奉行所復元工事のようすを、ハイビジョン映像で紹介します。復元工事の随所で繰り上げられた宮大工をはじめ、瓦・左官・建具などの専門職人による日本伝統建築の匠の技をご覧ください。

建築復元ゾーン



箱館奉行所復元工事の紹介
箱館奉行所の復元は、その構想から約20年もの歳月を経て完成しました。古写真・文献資料・発掘調査などの長年にわたる研究成果により、当時の姿をできるかぎり再現することを目指し、日本伝統の建築技術を駆使して完成した復元プロジェクトを紹介します。